

北九州市立枝光台中学校

えだみつだい

校長 戸次 健治

【校訓】

「邂逅」「自律」「創造」

【学校教育目標】

「知・徳・体の調和のとれた心豊かで、学校や地域を愛し自主自立の精神に満ちた生徒の育成」

修了式で話したことです

1年生、2年生のそれぞれの代表に、「本校第何学年の課程を修了したことを証する」と記した修了証を渡しました。この修了証は、卒業証書と同じ位の大切な意味を持っています。皆さんはそれぞれ、1年生、2年生で学習した全ての事を身に付けて次の学年に進むことができたという意味を持っています。何気なく、次の学年に進むのではなく、階段を一つ一つ上るように、一年一年、次のステップに進んで行っています。その意味をしっかりと受け止めてください。

話は2週間前に遡りますが、3月8日に行われた卒業式では、3年生は立派な態度で卒業証書を受け取り、大きな声で校歌や卒業の歌を披露しました。2年生にも、今年の卒業生に負けず立派な卒業式になるよう、次の一年間、頑張ってください。

さて、1年間の学習が終わり、次のステップに進む人生の大切な節目にいる皆さんに話したいことがあります。それは、「自分には出来ないと諦めず、やりたいと思うことに挑戦してほしい」ということです。そのためには、決して失敗を恐れず、何事にもチャレンジする精神を持つこと、そして、失敗しても立ち上がって前進する、逞しさを身に付けて欲しいということです。電機会社のパナソニックを一代で築き上げた松下幸之助さんが遺した言葉に「失敗とは成功する前に止めること。成功するまで続ければ必ず成功する。こけたら、立ちなはれ！」という名言があります。世の中で成功した人たちは、普通の人の何倍も失敗を重ねたと言われています。辛くても諦めないこと、急がなくてもいいから諦めないことが大切です。皆さんにも、「自分には出来ないと諦めず、やりたいことに挑戦してほしい」と思います。

二つ目は、感謝の気持ちをもって生活して欲しいと言うことです。皆さんはこの一年間、体育大会や文化発表会、クラスマッチなど、様々な行事でクラスごとに団結しながら取り組み、素晴らしい思い出を作っていました。時にはクラスがバラバラで、団結できない時もあったと思いますが、取組の最中に湧き出た友だちへの感謝の気持ちは、クラスの中でプラスの力に働き合ったのではないかと思います。感謝と応援のある組織は、良い結果を生み出す、と言われています。この一年間、みんなで学んだことを、感謝し、これからも共に高め合ってほしいと願っています。

皆さん一人一人が、感謝の気持ちをもって生活することで、みんなが楽しいと思える学校へとなっていました。

新年度も、一人一人が挑戦する気持ちと感謝の気持ちをもって生活してほしいと思います。

それでは、4月からの皆さん一人一人の活躍を願い、修了式の言葉とします。